

令和6年度 江戸川区立東葛西中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んでよく学びよく働く生徒になろう。 ・心身ともに健康で粘り強い生徒になろう。 ・豊かな個性を育て社会に役立つ生徒になろう。 	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考え、判断、行動を起こし、日々成長を実感できる学校 ・人権尊重の精神を生かし、自分も人も大切に、いじめのない学校 ・教職員一人一人が力を最大限に発揮し、使命感をもって組織的に生徒の育成に努める学校 ・地域からも応援され、卒業生や保護者からも誇りに思われる学校
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査実施教科で全国の平均を越え、「授業がわかりやすい」の項目で全教科で肯定的な意見がでている。 ・体力調査の体力合計点で東京都を上回るなど計画的な取り組みがみられている。 ・月1回のいじめ防止アンケートを実施し、生活指導部を中心の迅速に活動している。 ・ホームページ・テトル等を効果的に活用し学校の情報を積極的に公開している。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校巡回教員を中心に関係諸機関と積極的に連携し、どこともつながっていない生徒ゼロに向けての取組。 ・基礎的・基本的な学力を保障するための授業改善とICT機器の積極的な活用。 ・生徒会が主体となった「みそあじ」運動を充実による生徒の規範意識の定着。 ・ホームページの毎日更新により、保護者・地域への情報発信のさらなる充実。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度			「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント			
学力の向上	生徒の基礎学力の定着とその伸長を図る。	・生徒授業アンケートを通して授業改善プランを策定させ、基礎学力の定着を図り、深い学びにつなげる。	・生徒の授業満足度80%以上にする。 ・全国学力学習状況調査全教科、全国・都の平均を上回る。	B	B	B	B	・ほぼ全教員に対して、授業がわかりやすいと80%以上の生徒が回答した。 ・全国学力学習状況調査全教科、全国平均を上回った。都の平均を国語・数学で上回った。	B	・全国学力学習状況調査の結果などから成果がみられている。今後もさらなる学力の向上をお願いしたい。	B	・生徒授業アンケート結果で、ほぼ全教員に向上が見られた。 ・全国学力学習状況調査実施教科（国・数）、区学力調査で数・英で全国平均を上回った。	B	・学力調査結果・教員の授業力向上で成果がみられている。今後も教員の授業力向上に向けての取組を継続していただきたい。	基礎・基本の確実な習得に加え、思考判断表現力の向上、家庭学習習慣を付けさせる組織的な取組を継続して実施する。
	タブレット端末の効果的な活用 の推進、およびデジタル技術の活用	・タブレット端末の活用する機会を積極的に設定。 ・実践的なICT研修の実施	・ICTを効果的に使用する場面授業の80%以上の授業で設定。	B	B	B	B	・全教員がICTを活用した授業を展開している。効果的な使用を促進するためにICT支援員による実践的な研修を実施した。	B	・ICTを効果的に活用することで生徒の学力の向上に努めていただきたい。	B	・実践的なICT研修を実施した結果、タブレット端末を積極的に活用教員が増加した。	B	・ICTを日常的に活用することで生徒のさらなる学力の向上に努めていただきたい。	・授業内でのドリル教材等を効果的に活用し基礎学力の向上に努める。 ・生徒同士の意見の共有する場面等での活用を推進する。
	〇読書料の更なる充実	・学校図書館支援と連携した利用時の機能の充実する。 ・生徒会による広報活動の充実。	・図書館利用率を前年度を上回る。 ・生徒の読書量の増加。	A	A	A	A	・図書委員会の呼びかけにより図書館利用率が前年度の1.5倍になった。図書館利用も非常に静かに利用している。	A	・図書館利用率の向上がみられ、生徒の読書量の増加していると思われる。今後も読書料における学校の取り組みを今後も充実してほしい。	A	・学校図書館の効果的な活用がみられた。 ・図書委員による広報活動の充実により、生徒の読書量が向上した。	A	・生徒の主體的な呼びかけによる、学校図書館の充実を継続してほしい。	・図書館利用率をさらに向上させるとともに、読書料の充実を継続してほしい。 ・生徒の思考判断表現力の向上につなげていく。
体力の向上	日常的な運動を取り入れた活動の推進	・基礎体力の向上を目指し、授業中の基礎トレーニングの計画的な実践。 ・部活動において生徒に適切な運動の機会を与え、体力の向上を図って「いく」。	・東京都の体力調査の平均を上回る。	B	B	B	B	・東京都体力調査では1・2年生で9種目中6から8種目で東京都の平均を上回った。3年生は男子で5種目、女子で2種目で都の平均以上であった。授業中の基礎トレーニングを継続していく。	B	・体力調査の結果を確認し授業等、体力の向上を今後も目指していただきたい。	B	・体力調査結果の多くの項目で東京都の平均を上回るなど取り組みの成果がみられている。	B	・多くの種目で東京都平均を上回るなど計画的な取り組みがみられている。運動する習慣の少ない生徒の体力の向上に努めていただきたい。	・さらなる向上を目指し、授業中の効果的な実践を計画的に行う。 ・部活動で生徒に適切な運動の機会を与え、体力の向上を図る。
教育の推進 共生社会の 実現に向けた	・特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援委員会の充実。	特別支援教育委員会が対応方針を決定し各学年に提案、巡回指導教員と担任教員との連携強化など組織体制を構築する。	・特別支援教育校内研修会の実施。 ・巡回指導教員と担任教員の月2回以上の情報共有。	A	A	A	A	・2学期に特別支援教育校内研修会の実施。 ・巡回指導教員と担任教員はほぼ毎週、情報共有を実施している。	A	・生徒の健全育成に向けて情報の共有を継続してほしい。	A	特別支援教育委員会での情報共有から効果的な取り組みを各学年に提案するなど組織体制が確立した。	A	・特別支援教育のさらなる充実を目指し、個々の生徒へのきめ細やかな指導を継続してほしい。	・特別支援教育校内研修会のさらなる充実。 ・日常的な、巡回指導教員と担任教員との連携。
	・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・副籍交流を充実させ生徒の多様性を認める意識を醸成する。	・年間2回以上の交流を行う。	B	B	B	B	・副籍交流は学校より等の交換で実施することになった。鹿本学園のコーディネーターを講師に招いて校内研修を実施する。	B	・教員が実践的な研修を行うことで生徒に寄り添う指導に活かしていただきたい。	B	・今年度の副籍交流は学校より等の交換にとどまった。	B	・研修をさらに充実させ、生徒の多様性を認める意識を醸成に努めていただきたい。	・副籍交流を充実させ生徒の多様性を認める意識を醸成する。 ・実践的な校内研修を継続してして実施する。
不登校・いじめ対応の充実	・不登校巡回教員を中心とした不登校対策委員会の充実。	・SC/SSW・外部機関との連携。 ・エンカレッジルーム（別室支援事業）活用の推進。	・どこともつながりのない生徒をゼロにする。 ・エンカレッジルーム（別室支援事業）利用生徒数を前年度より増加させる。	B	B	B	B	・特別支援教育コーディネーターを中心に不登校生徒対応を行い、どこともつながりのない生徒は0名である。 ・エンカレッジルーム（別室支援事業）利用生徒数を前年度9名から10名となった。さらに増加するように努める。	B	・エンカレッジルームの利用者が増加など特別支援教育が充実している。 ・不登校減少への取り組みを継続してほしい。	B	・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な取り組みにより、どこともつながりのない不登校生徒は0名となった。 ・エンカレッジルーム（別室支援事業）利用生徒数が前年度を上回った。	B	・不登校減少への取り組みをさらに充実させてほしい。 ・研修等を利用して生徒理解を高める取り組みをさらに充実させてほしい。	・不登校対応コーディネーター・不登校巡回教員を中心に関係諸機関と積極的に連携し不登校生徒の減少を目指す。 ・研修等を充実させ、予防的な取り組みを充実させる。
	・いじめの早期発見・早期対応・早期解決を組織的に行う。	・いじめ防止アンケートを実施し早期発見・早期対応・早期解決を組織的に、長期にわたるいじめを防止する。	・月1回、いじめ防止アンケートを実施する。	A	A	A	A	・月1回、いじめアンケートを実施している。 ・第1・2学年で2学期から生徒用タブレットで意識調査を実施している。	A	・アンケート調査等の活用により、いじめの早期発見・対応につとめてほしい。	A	・いじめ防止アンケートを実施し早期発見・早期対応・早期解決を組織的に行った。 ・教員間の情報共有を充実させ、いじめを防止の取り組みを組織的に行った	A	・今後もいじめ防止アンケート等を活用し早期対応に努めていただきたい。	・月1回、いじめアンケートを継続させるとともに生徒用タブレットでの意識調査から早期発見・早期対応に努めていく。
	・hyper-GUの活用	・QUテストによる客観的なデータに基づいた学級経営の推進。	・校内研修でQUの理解を深める外部講師を招いた研修・QU学年検討会をそれぞれ年間2回実施する。	B	B	B	B	・QUを実施後、校内研修で外部講師を招いた研修を実施した。同時に学年集団で、情報共有し生徒理解に努めた。	B	・生徒情報を教員相互に共有し、生徒への理解を今後も深めてほしい。	B	・QUテストによる客観的なデータに基づいた研修から学校全体で生徒に寄り添う学級経営を推した。	B	・生徒への理解を今後も深め、学校に楽しく登校できる生徒を増加させてほしい。	・全教員が一体となって日々の生徒の変容を注視し生徒理解を深めていく。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	＜自校の取組の積極的な発信＞ ・学校ホームページの充実等	・教員によるホームページの主體的な更新。	毎日の更新。	C	C	C	C	・ホームページを更新する教員が限られている。経営支援部を中心に更新の機会を増加していく。	C	・ホームページ等により学校の情報を今後も公開していただきたい。保護者・地域との連携を今後も深めてほしい。	C	・ホームページを更新する教員が限られている。組織的な取り組みにより更新の機会を増加させていく。	C	・ホームページ等により学校の情報を積極的に公開していただきたい。	・経営支援部を中心に組織的に更新の機会を増加していく。
	・ボランティア活動の充実	・生徒会からのボランティア活動、積極参加についての発信を行う。	・前年度よりボランティア活動参加生徒を充実させる。	B	B	B	B	・生徒会主催のあいさつボランティア活動を前年度より増加させた。	B	・あいさつボランティア活動を今後も続け、生徒のボランティアに対する意欲を向上させてほしい。	B	・生徒会主催のあいさつボランティア活動が充実するなど、生徒のボランティアマインドの向上がみられた。	B	・生徒の主體的な取り組みの推進をさらに進めていただくことにより、ボランティア精神の育成を図っていただきたい。	・生徒会主催のボランティア活動の機会を増加させるなど、さらなる充実を図る。
教育の特色ある展開	＜学校における働き方改革プラン＞ ・「学校における働き方改革プラン」や「部活動の方針」に従った取り組みにより生徒と向き合う時間を確保する。	・回覧・ICTを活用し会議を精選する。 ・分掌主任の進捗状況の把握による短時間で効率的な会議の実施。	・全教員、月残業時間70時間以下。	B	B	B	B	・4月から7月までの4か月で月平均4.2名（全教員の12%）の教員が70時間以上の残業をしている。声掛け、面談等を行い改善に努めていく。	B	・教員の体調が生徒指導に影響を与えると考えられるので今後も業務の効率化を進めていただきたい。	B	・前年度に比べ残業時間が減少した教員が増加した。 ・月70時間以上の残業をしている教員が一定数いる。	B	・教員の働き方改革を進め、生徒指導のさらなる充実を図っていただきたい。	・業務改善を進め、月70時間以上の残業をしている教員を減少させる。
	＜自己肯定感の向上＞ ・「みそあじ」運動の徹底。	・「みそあじ」運動の推進し、生徒主体の取り組みを充実させる。 ・自己肯定感を高める指導の推進。	・生徒会による「みそあじ」運動に関する発信を学期に1回以上行う。	B	B	B	B	・生徒会から1学期に「みそあじ」について、全生徒に重要性について呼びかけを行った。	B	・多くの生徒がみそあじをしてくれる。生徒主体の「みそあじ」運動の充実をお願いしたい。	B	・生徒会中心の活動を充実させ、自己肯定感を高める取り組みを推進した。	B	・教員からの働きかけだけでなく、生徒会活動を充実させることにより、自己肯定感の向上を図っていただきたい。	・生徒主体の「みそあじ」運動の取り組みをさらに充実させることにより、自己肯定感の向上を図る。 ・教員同士の連携を強化し自己肯定感を高める指導の推進する。